

平成30年度 学校評価結果報告書

上田市立丸子北小学校

1 学校教育目標

- (1) 仲良く助け合う子
- (2) 進んで学び、自分の考えが言える子
- (3) 最後までやり抜く子

2 めざす子どもの姿・中間的な目標（具体的目標）等

しっかり考え、力を合わせて、粘り強く追究する児童の育成

3 昨年度（平成29年度）の学校評価の成果と課題

(1) 成果と課題

- ①児童アンケート「勉強はよく分かりますか」のA評価が10%向上した。視聴覚機器も効果的に活用し「わかる授業」が進んだ。職員アンケート授業改善等の項目⑥～⑩でも、1学期の反省を受けて全職員で取り組んできた「丸北小スタイル」や学習規律「北小っ子ルール」の成果が少しずつ出ている。国語「読むこと」の力をつける研究では、低高部会を設け、一人一公開をしながら日常の授業改善を図ってきた。特に課題であった「振り返り」や「見とどけ」が定着しつつある。さらに授業の終末を教師がどうまとめていくか、教材研究も含めた研究を進めたい。
- ②「地域に開かれた学校を目指し、地域や人や自然に関わった特色ある学習活動をしている」の保護者アンケートの項目A評価が上がった。「地域探険」や「保育園や敬老園との交流」等の活動を充実させ、子どもたちが自ら考え動き出す「主体性」に重点を置いてきた成果が出ている。今後も地域の人材やものを大いに活用したり、発表の仕方を工夫したりしていく。
- ③Q-U検査分析研修も年2回実施し児童理解や教育相談が進んだ。児童アンケート「学校で友だちといっしょに勉強したり遊んだりすることは楽しいですか」項目で、Dとなっている児童がなくなるよう、いじめや不登校未然防止に役立てていきたい。
- ④ホームページで、学校の様子を多く伝えることができた。これからも保護者や地域の方々に関心をもって見ていただけるようにしていきたい。また、本年度も学校のニーズから発信し、クラブ活動外部講師や学習活動支援ボランティアを少しずつ増やしていきたい。

4 今年度の重点と目標達成のための具体的取組

| 重点目標 | 具体的取組 |
|----------------------|--|
| 1 「伝える力」をのぼす 学力向上 | ○「伝える力」をのぼす授業研究 〈授業改善や学力向上をめざした重点的な取組〉 ・低学年から高学年へつながりのある研究 ・スキルアップトレーニング ・授業の基本スタイルの徹底 シャープな導入→自分で読み、考える→話し合い（伝え合い） →見返し（見とどけ） の時間確保 ・NRT、PDCA調査等による評価で課題の明確化 〈授業改善や学力向上を評価する検証方法〉 ・「話し合い活動」についての職員アンケートを実施し、高まりを評価。 〈教職員の指導力向上のための研修〉 ・一人一公開実施。教材研究 |

| | |
|--------------|--|
| | <p><子どもを育てる家庭・地域との連携></p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の形成 ・「つむぐ」の活用 ・家庭学習に学習時間（15分×学年）の目安をもたせる取り組み <p>○授業のユニバーサルデザイン化と個別の指導計画の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見通しがもてる授業の流れの提示・「個別の指導計画」見直し研修 |
| 2 「自主性」をのばす | <p>○友と協働して課題を解決する「生活科・総合的な学習の時間」の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育園児との交流、福祉施設(敬老園等)との交流 ・子どもが試行錯誤しながら解決する体験活動の工夫 ・「丸子北小コミュニティスクール」の活用 <p>○地域の「もの・ひと・こと」に本気で取り組む活動</p> <p>○自分の心をみがくそうじ</p> |
| 3 「豊かな心」をのばす | <p>○認め支え合える学級づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な友だちと認め合い支え合う関係づくり ・教師も子どもも人権感覚を研ぎ澄ます ・解放子ども会指導等での職員の学びを学級経営に活かす <p>○「北小っ子タイム」で教師と子どもがふれあう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な活動に取り組める時間・異年齢とのふれあいの時間 <p>○Q-Uの活用（年2回のQ-U検査分析研修）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級の状況の把握ときめ細かな支援 ・いじめの未然予防 <p>○自分から進んであいさつのできる子ども</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童会のあいさつ運動、地域交流あいさつデーへの参加 |

5 評価の方法

(1) 学校自己評価作成の経過

| 月 | 内 容 |
|-----|--|
| 4月 | ・学校評価シートの作成と公表（PTA総会等で説明、ホームページ掲載） |
| 6月 | ○第1回学校評議員会で、本年度の学校評価の説明と意見交換 |
| 7月 | ・学校自己評価（中間報告：教職員アンケート）の実施 |
| 8月 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校自己評価委員会でアンケート結果のまとめと考察 ・職員会での報告と2学期に向けての方針の確認 <p>○第2回学校評議員会で、学校自己評価（中間評価）の意見交換</p> |
| 10月 | ・アンケート結果と学校評価シート（中間報告）をホームページで公表 |
| 11月 | <ul style="list-style-type: none"> ・教職員・児童・保護者各アンケートの作成 ・教務学年主任会検討・職員連絡会にて提案 |
| 12月 | <ul style="list-style-type: none"> ・教職員アンケート配付、回収 ・職員会にて最終検討 ・児童・保護者アンケート配付、回収 |
| 1月 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童・保護者・教職員アンケート結果と課題の分析 ・教務会・職員会で提案協議 アンケート結果の分析とまとめ |
| 2月 | ○第3回学校評議委員会で、教職員・児童・保護者アンケート結果を検討し、学校評議員からの意見を受けて学校関係者評価を作成する。 |
| 3月 | <ul style="list-style-type: none"> ・「学校自己評価」と「学校関係者評価シート」をホームページで公表する。 ・「保護者アンケート結果」を学校だよりで公表する。 |

(2) 学校関係者評価（組織等）

民生児童委員、学校ボランティア、元PTA会長、等 5名（男性3名、女性2名）

6 自己評価（児童、保護者、職員）の結果と分析

※添付資料①～③参照

7 学校関係者評価の結果と分析

※添付資料④参照

8 自己評価・学校関係者評価の公表

- (1) 5月～6月上旬に、学校評価シートについてPTA総会、学校だより、ホームページで公表。
- (2) 10月上旬に、学校評価シート（中間報告）をホームページで公表。
- (3) 2月下旬に、学校評価シート（最終報告）とアンケート結果をホームページと学校だよりで公表。3月上旬に上田市教育委員会に報告書提出

9 設置者（上田市・上田市教育委員会）への要望

特になし

10 まとめと次年度に向けて

- (1) 学力の定着・向上
 - ・児童アンケート⑥「勉強はよく分かりますか」で、D「わからない」が全校で1名になった。「授業のユニバーサルデザイン化」に心掛け、ICT機器も効果的に活用することで、「わかる授業」が進んだと考えられる。職員アンケート授業改善等の項目⑥～⑩でも、1学期より大幅に向上し、授業改善が進んでいる。課題であった「振り返り」や「見とどけ」も8%向上し、定着しつつある。重点研究グループの取り組みに課題が残った。研究の方向性を明確にして部会内で共有し、職員一人ひとりの課題や実践へとつなげていきたい。また、各部会の研究を、全体に広げられるよう、情報の共有化を工夫したい。
- (2) 自主性を伸ばす
 - ・職員アンケート⑦「子ども自身が今持っている力で考え、行動し、『自分の力でできた』と実感できる授業づくりをしているか」という項目では、1学期と比べ11%向上した。「生活科」や「総合的な学習の時間」を始め、日々の授業の中で、子どもたちが自ら考え動き出す「主体性」に重点を置いてきた成果が出ている。今後も、「教師主導の授業」から脱却し、アクティブ・ラーニングなどを取り入れながら、主体的な学びを育てていきたい。
- (3) 豊かな心と健やかな身体の育成
 - ・本年度も、Q-U検査分析を年2回実施すると共に、講師を招聘して研修を深め、児童理解に努めてきた。また、全学級で「個別の指導計画」を作成し、個に応じた指導や支援が行えるよう取り組んできた。今後も、多様な角度から児童理解を深め、全ての子どもたちにとって居場所や存在感のある学級づくりを行っていくと共に、いじめや不登校未然防止に努めていきたい。
 - ・保護者⑩「学校は登下校時の交通安全確保や不審者対策について適切な手だてをうっている」が、昨年度に比べ14%向上した。今後も、日々の安全指導や安全に関わる「安心メール」の配信を丁寧に行っていきたい。
- (4) その他
 - ・職員アンケート⑩「非違行為防止に努めているか」が、昨年度より11%向上した。今後も同僚生を大切にしながら、全職員で非違行為防止に努めていきたい。